

## オープン教育について

子どもは一人ひとり、すばらしい可能性を持っています。習志野みのり幼稚園のお子様も、理解ある家庭、とりわけご両親の加護の中ですくすく伸び伸びと成長しておられます。

子どもはユニークです。一人ひとり個性が違います。私たちはその個性を見出して差し上げることに努力しております。それは一斉詰め込み教育の保育ではできません。

一斉画一保育は一見平等そうに見えて大変不平等だからです。子どもはそれぞれ皆違うからです。小さな個性の芽を発展して伸ばすにはオープン教育でなければと考えるのです。一人ひとりが自ら求めて学習し遊ぼうとするお子様に対して、教師はサジェスチョンし案内し、助け上げる事が本物の保育だと思います。あくまでも主役はお子様なのです。子どもはアクティブです。どの子も生き生きとし活動する事を喜ぶのが子ども本来の姿です。机の前で椅子に座り、じっと先生のお話を聞いて一見おとなしく、おりこうさんに見えても、子どもの頭の中では何の活動もしていない事がよくあるものなのです。

子どもの自主性、思考力、創造力を伸ばす保育とは、子どものバランスのある積極的活動なので、毎日の通園が楽しくてたまらないという事が大切な条件です。子どもはトータルです。園でいくら先生たちが努力してオープン教育を中心に保育しても、ご両親のご理解、ご協力がなければ、到底成功するものではありません。子ども達には、園での生活と同時に、それぞれのご家庭での教育方針や環境があるはずで、それに逆らって教育してもお子様を戸惑わせるばかりで、「ぬかにくぎ」になってしまいます。ご家庭と園が一体になって協力し、一人ひとりの子どもに適応した保育こそオープン教育なのです。

オープン教育は、これといった形式があるわけではありません。もし形式が定まっていたら、それはオープンではないのです。ただ子どもの発達段階が個々に異なるわけですから、それに適応した教育を一人ひとりに行い、決して無理な詰め込みやひっぱる教育をしないという事なのです。子ども自らが知り、自らに働きかけて、自らを切り開いて行う事をする方法を取るのです。一見まどろこしい様にも感じるでしょう、しかしお子様が長じて後、立派に開花されるまで花の盛りを急がせない事なのです。子どもたちがいつか成長し社会人になった時、彼ら個人個人に価値観を確立して自己決定ができる人間になる事なのです。

世界の先進国と呼ばれる国々は勿論インフォーマルな教育方法を取っております。日本も子ども一人ひとりを本当に大切に教育をしなければならぬ責任を感じて、保育に毎日組み込んでおります。どうぞ、園の教育方針にご関心をお寄せ頂き、ご協力ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

尚、ご不審の点がございました時は、いつでもお話し合い致したく存じますので、ご遠慮なくお申し出くださいませ。